



はまなす



2017年9月 No. 3

- 二次研究協議会開催要項
- 二次研究協議会拡大推進委員研修会の開催について
- 次年度役員選出について
- 二次研究協議会「提言内容（例）」
- 二次研究協議会拡大推進委員研修会用「提言骨子（例）」



1. 各サークルの状況～授業内容の交流

市町村	低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック
千歳	1年生 授業者 加藤 創平教諭 (日の出小) 責任者 山田もと子教諭 (祝梅小) 記録者 山田 仁実教諭 (祝梅小) 記録者 五十嵐博美教諭 (泉沢小)	3年生 授業者 相澤 勇佑教諭 (緑小) 責任者 湯川 唯人教諭 (桜木小) 記録者 石川裕佳子教諭 (日の出小)	5年生 授業者 亀屋 公明教諭 (北陽小) 責任者 鈴木 清孝教諭 (高台小) 記録者 蜂谷 良美教諭 (末広小)
恵庭	1年生 授業者 曾根 紫保教諭 (和光小) 責任者 児玉 憲彦教諭 (和光小) 記録者 田中 裕人教諭 (恵み野小)	4年生 授業者 岡藤 知里教諭 (若草小) 責任者 江渡 和恵教諭 (若草小) 記録者 今 勇太教諭 (柏小)	5年生 授業者 福島 剛 教諭 (松恵小) 責任者 高橋 敬二教諭 (島松小) 記録者 加藤千佳子教諭 (恵み野旭小)
北広島	1年生 授業者 伊藤 倫子教諭 (東部小) 責任者 佐藤 実 教諭 (東部小) 記録者 飯坂 直子教諭 (北の台小)	3年生 授業者 川越 有紀教諭 (北の台小) 責任者 土坂 幸子教諭 (西部小) 記録者 小林 沙織教諭 (大曲小)	6年生 授業者 鈴木三津江教諭 (西部小) 責任者 大根田 博 教諭 (西部小) 記録者 湊 哲朗教諭 (双葉小)
江別	1年生 授業者 伊藤 香 教諭 (大麻泉小) 責任者 関根 博明教諭 (江別太小) 記録者 伊藤 加奈教諭 (大麻東小)	3年生 授業者 神野 知美教諭 (第一小) 責任者 佐伯 俊光教諭 (文京台小) 記録者 佐藤真由美教諭 (東野幌小)	5年生 授業者 渡會 大亮教諭 (いずみ野小) 責任者 富川知恵子教諭 (中央小) 記録者 前多 香織教諭 (大麻泉小)
石狩 <中心>	1年生 授業者 鎌田 響子教諭 (花川小) 責任者 中井 央子教諭 (花川小) 記録者 鈴木 大助教諭 (花川小) 記録者 尾岸 奈美教諭 (南線小)	4年生 授業者 菅野 清徳教諭 (双葉小) 責任者 三浦 由紀教諭 (双葉小) 記録者 東 浩司教諭 (石狩小) 記録者 西岡 健太教諭 (緑苑台小)	5年生 授業者 鹿島美穂子教諭 (南線小) 責任者 口岩 竜馬教諭 (南線小) 記録者 鹿野 由衣教諭 (紅南小) 記録者 佐藤 大輔教諭 (花川南小)
当別		4年生 授業者 高津 健 教諭 (西当別小) 責任者 遠藤 豊和教諭 (当別小) 記録者 川田ゆかり教諭 (当別小)	

2. 二次研究協議会開催要項

(1) 開催日 10月13日(金)

(2) 開催地 石狩市

(3) 公開授業校

低学年ブロック 花川小学校 (1年生)

中学年ブロック 双葉小学校 (4年生)

高学年ブロック 南線小学校 (5年生)

(4) 二次研究協議会の日程について

8:30				12:00	13:00		16:40
	9:00	9:45	10:00	11:30			16:20
受付	授業公開 (45分間)		ブロック分科会① (公開授業について)	ブロック分科会② (レポート提言について)	昼 食	ブロック分科会③ (レポート提言について)	整理 委員会
低ブロ～花川小、中ブロ～双葉小、高ブロ～南線小							

1) 分科会①について

○中心サークルの授業や授業提言に関わる話し合いを行う。(10:00~11:30)

2) 分科会②について

①各サークルから授業ならびに提言について発表する。発表は、内容を精選し15分以内にまとめる。映像を活用するなどして、児童の様子や手立ての様子が伝わるよう工夫する。

- ・低プロ…11:30~12:00、13:00~16:20(230分間)を4サークルで交流
- ・中プロ…11:30~12:00、13:00~16:20(230分間)を5サークルで交流
- ・高プロ…11:30~12:00、13:00~16:20(230分間)を4サークルで交流

②発表サークル以外のサークルは、「討議の柱」を踏まえて、付箋に良いと感じたことや、質問したいことなどを記入していく。

※今年度より各サークルの表紙の色を指定し、付箋と連動させる。

ピンク:江別 クリーム:新篠津・当別 水色:恵庭 黄緑:北広島 黄色:千歳
※中心サークルである石狩は、上記の色以外(ふじ色カラベンダーを予定)。

③全サークルの発表終了後、サークルごとに模造紙に自分の書いた付箋について話しながら貼っていく。貼り終わったら、付箋を観点ごとにグルーピングし、発表の準備をする。

④完成した各サークルの模造紙を見合う時間を設ける。

⑤各サークルの代表者が、他サークル対し感想を述べたり質問をしたりする。質問には、適宜答えていく。

⑥最後にそれぞれのサークルごとに振り返りの時間を設ける。

○個人レポートも受け付ける。個人レポートの状況を確認する。

※途中で適宜、休憩時間をとる。

※最後に余った時間を、アンケート記入の時間として調整する。

(5) 持ち物

- ・はまなすNo. 1~3
- ・該当教材が掲載されている教科書、またはそのコピー
- ・上靴、スリッパ

(6) 昼食

- ・600円で斡旋します。
- ・推進委員の先生は、9月29日(金)に双葉小で行われる二次研究協議会拡大推進委員会で代金を納入してください。
- ・注文数と氏名を事前にFAXで9月15日(金)までに双葉小・伊賀へ連絡してください。

(7) 中心サークル（石狩市）の状況

	1年	4年	5年
授業者	鎌田 響子教諭（花川小）	菅野 清徳教諭（石狩双葉小）	鹿島美穂子教諭（南線小）
教材	はたらくじどう車	ウミガメの命をつなぐ	世界遺産 白神山地からの 提言―意見文を書こう
責任者	中井 央子教諭（花川小）	三浦 由紀教諭（石狩双葉小）	口岩 竜馬教諭（南線小）
記録者	鈴木 大助教諭（花川小） 尾岸 奈美教諭（南線小）	東 浩司教諭（石狩小） 西岡 健太教諭（緑苑台小）	鹿野 由衣教諭（紅南小） 佐藤 大輔教諭（花川南小）
会場責任者	鈴木 大助教諭（花川小）	三浦 由紀教諭（石狩双葉小）	口岩 竜馬教諭（南線小）
司会者	澤飯 聡人教諭（花川南小） 佐瀬 智之教諭（柏小）	高橋 由美子教諭（当別小） 河上 創教諭（北広島双葉小）	尾田 健久教諭（江別太小） 蜂谷 良美教諭（末広小）
分科会 責任者	金丸 剛輝（新篠津小） 熊谷 夏子（向陽台小）	伊賀 信之（石狩双葉小） 乾 真彰（恵庭小）	山本 麻千子（大麻小） 岩崎 晋也（泉沢小）

(8) 集会の運営…二次研究協議会拡大推進委員会の時に細かい打ち合わせを行います。

① 授業者

- ・例年、通常教室での授業だと教室に入れな先生がかなりいるのが実情です。環境が変わることによる問題点もあると思いますが、できるだけ広い教室で授業を行うよう、お願いします。各ブロックの予想される参加人数は以下の通りです。

参加人数（担任外の先生方の所属が一部不明なため、概数です）

人数	低ブロ	中ブロ	高ブロ
千歳	9名	9名	10名
恵庭	3名	10名	9名
北広島	5名	5名	5名
江別	9名	10名	13名
石狩	7名	8名	3名
当別・新篠津	—	8名	—
	33名	41名	41名

担任以外 42名

②会場責任者

- ・会場（授業教室・控室・駐車場・セルフサービス湯茶等）の準備、設営。
（予算3000円）
- ・会場内外の表示。（立て看板「石教研国語（小）部会 ○ブロック授業・分科会会場」・授業会場・分科会会場内表示など）
- ・受付で、参加者名簿への記名指示と、市町村レポートの配布。部会役員も受付業務をしますが、あいさつ等で場を外したり、特に授業開始10分前には、授業教室に入り進行の準備をしたいので、2名ほど受付のお手伝いをお願いいたします。
- ・参加者名簿は、当日事務局で用意します。
- ・分科会終了後の教室復元の指示、湯茶の後始末。
- ・ビデオによる授業の記録。DVDは事務局で用意します。撮影用ビデオカメラは各学校でご用意ください。

① 司会者

- ・各市町村推進委員の先生が担当します。
- ・ブロック分科会の司会進行をお願いします。（2名体制なので午前担当、午後担当と分けても結構です）

② 記録者

- ・中心サークル部会員より選出。（各ブロック2名）
- ・提言された授業の記録。後日、A4用紙2枚程度（様式あり、二次研究協議会拡大推進委員研修会で提示）にまとめ、事務局（恵庭小 乾）まで送付ください。（FAX、メール可）
- ・午後からの分科会討議の記録。清書しないで、当日そのまま分科会責任者に渡してください。書式はとくにありません。

③ 分科会責任者

- ・部会役員が担当します。
- ・分科会の開始、終了。司会者等の紹介。
- ・司会者と連携し、円滑な運営に努める。

(9) 提言

① レポート作成を原則とする。

- ・各市町村で低・中・高合本にする。
- ・横書きを原則とし、表紙には「年度」「市町村」「学年」「教材名」等を入れる。
- ・サイズはA4とする。
- ・中心サークルは9月15日(金)までに表紙原版作成・帳合いの上、石教研事務局（研究センター）に持ち込み、製本してもらう。（製本申し込み票を添付してください）
- ・180部作成し、低プロ分科会場に60部、中プロ分科会場に60部、高プロ分科会場に60部置く。レポートを置く方は、8:30までに会場へ届くようお願いします。（会場責任者と相談し、前日も可）

3. 二次研究協議会拡大推進委員研修会の開催について

① 期 日 平成29年9月29日（金）午後3時～

② 会 場 石狩市立 双葉小学校

③ 出席者 ・中心サークル部長<1>

・中心サークル授業者<3>

・会場校責任者<3>

・中心サークル記録者<6>

・市町村授業責任者<16>

・市町村推進委員<6>

・部会役員<6>

計41名

④ 内 容 ☆二次研究協議会の運営について

- ・本年度の研究の重点を確認し、分科会討議の進め方についての共通理解を図る。
- ・提言内容の交流、発表順の決定

*円滑な話し合い、発表順決定のため、各市町村サークルの提言者（授業責任者）に提言内容骨子のプリント（A4、1枚）を20枚用意してもらいます。参考例を巻末に掲載しています。

4. その他

(1) 管内児童詩集「石狩の子・第27集」の発行について
 さまざまな場でごびかけをお願いします。

(2) 次年度役員選出について

次年度は、江別サークル・千歳サークル・恵庭サークルの教育課程委員のうち、どなたか1名を教育課程代表（任期1年）として選考します。

《役職のつながりと任期》

- ・ 部長 → 副部長か事務局長を2年経験後、どちらかがこの役職へ（任期2年）
- ・ 副部長 → 研究員を2年経験後、この役職へ（任期2年）
- ・ 事務局長 → 事務局次長を2年経験後、この役職へ（任期2年）
- ・ 事務局次長 → 市町村の輪番で選出（任期2年）
- ・ 研究員 → 市町村の輪番で選出（任期2年）
- ・ **教育課程代表** → **2年任期の終わる教育課程委員の中から選出（任期1年）**

《市町村輪番表》

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
中心サークル	恵庭	石狩	北広島	江別	千歳	恵庭	石狩	北広島	江別	千歳
部長	大泉		大根田		西岡		金丸		(山本)(乾)	
副部長	佐藤		石倉		金丸		山本		岩崎	
事務局長	大根田		西岡		湊		乾		伊賀	
事務局次長	西岡		湊		乾		伊賀		北広島	
研究員	石倉		金丸		山本		岩崎		恵庭	
教育課程代表	林	恩田	富川	佐伯	鈴木	佐藤	熊谷	江・千・恵	石・北	江・千・恵

※当別町・新篠津村はもともと人数が少ないので輪番には入れない。

※教育課程代表の「江・千・恵」とは、本年度末で江別・千歳・恵庭の教育課程員が2年任期を終えるので、3人のうちどなたかが、その後1年の教育課程代表を務める。

※1人ずつの任期は次のとおり。

A:部長まで3つの役職をする人 = 6年

B:部長にならず2つの役職をする人 = 4年

C:教育課程代表 = 1年（教育課程委員2年も入れると3年）

国語（小）部会 ○○サークル 中学年ブロック 提言

1. 研究主題

多様な手立てによる「総合的な国語の力」の育成
～説明的文章教材における「表現のスキル」の習得と活用をめざして～

2. 研究仮説

説明的文章の指導において、「表現のスキル」の習得と活用をめざし、多様な手立てを工夫することによって、各領域を横断する「総合的な国語の力」を育むことができるだろう。

3. 研究の柱

- (1) 「読む力」を身に付けさせるために、「表現のスキル」に基づいて、説明的文章を効率的に正しく読み取るための手立ての工夫と、それに基づく指導計画のあり方
- (2) 身に付けた「表現のスキル」を自分の表現（話すこと・書くこと）に活かすための手立て（＝「言語活動」）の工夫と、それに基づく指導計画のあり方
- (3) 「説明的文章教材の『表現のスキル』系統表」の妥当性の検証

4. 年間指導計画の作成にあたって

年度当初の児童の実態（わかりやすく伝えようとする姿勢があるが、要点をつかみながら読むことはまだ難しい。言葉に対する興味関心は強いが、漢字や語彙の習得をさらに増やしていく必要がある。）から、説明的文章教材において、表現のスキルを身につけさせながら説明的文章を効率的に正しく読み取る力をもっと伸ばしていきたい、という担任の思いが根底にあった。

そこで、年間を通して箇条書きや要約、段落構成といった「表現のスキル」を身につけながらも、説明的文章を読んで思ったこと、考えたことを発表、話し合い、豊かな言語活動につなげていけるような授業を目指したいと考えた。

「めだか」

- ・ 箇条書き、要約のスキルを身につける。
- ・ 文章の大事などころやわかったことを加えながらまとめていく言語活動を取り入れる。

「くらしと絵文字」

- ・ 箇条書き、要約、「始め、中、終わり」の段落構成スキルを身につける。
- ・ 文章の中心と補足との書き分けに気をつけながら、自分を取り上げた絵文字の紹介

「どちらが生たまごでしょう」

- ・ 箇条書き、話し合いのスキルを身につける
- ・ たまごの見分け方や中身の違いを紹介するリーフレット作り（言語活動）

5. 説明的文章の年間指導計画（3年生）

※はまなすNO. 1 P9の形式を参考に作成してください。

6. 単元指導計画作成に関わって

3学年では、先に学習した説明文「めだか」や「生き物のとくちょうをくらべよう」において、段落のつながりやまとまり、構成に目を向けて読んでいる。その積み上げを生かしながら、本単元では第一に時を表すことばや段落の始めの文（指示語・接続語）に着目させながら読み、段落ごとにどのようなことが書かれているかを捉えさせたい。そのために、絵文字の特徴を文章中から探し、箇条書きにする活動を行い、最終的に「始め・中・終わり」という3つのまとまりになっていることに気づかせたいと考えた。

また、言語活動として「身のまわりで見つけた絵文字」を説明する文章を、身につけた「始め・中・終わり」の構成で書かせていきたいと考えた。

7. 研究の柱に関わって、実践検証した手立て

(1) 「始め・中・終わり」の段落構成を正確にとらえるために、考える視点を明確にする。

以下に記す5つの視点（観点）のうち、先の2つは説明文「めだか」や「生き物のとくちょうをくらべよう」で習得済みである。あとの3つは、教科書学習の手引きから引用した。児童が考える構成分け（段落と段落のつながり）のヒントとして、授業開始時に復習をし、板書・掲示をした。

①時を表すことば

「げんざい」、「昔から」

⇒ **既習観点(構成分けのヒント①)**

②段落のはじめの文

「このように」、「絵文字の第〇の特長は」、「これからの」

③絵文字とはどのようなものかを説明しているところ

【①～③段落】

④絵文字が使われている理由を説明しているところ

⇒ **学習の手引きにそって
(構成分けのヒント②)**

【④～⑫段落】

⑤これからのくらしと絵文字の役割を説明しているところ

【⑬～⑮段落】

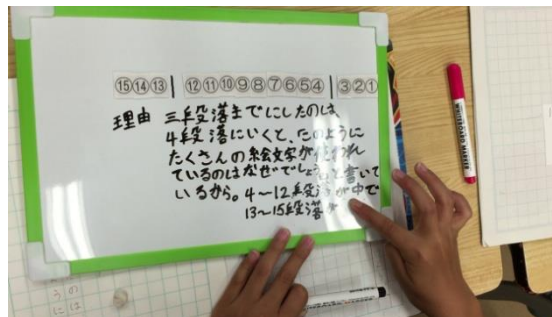
(2) 考える時間の確保、考えの整理と共有のために、ノートや教材に工夫を施す。

①あらかじめノートに段落番号の①～⑮の用紙を貼りつけておいた。それにより、全員が同じように段落を分ける線を引き、理由を考え書く時間を確保できた。

②班交流の場面では、ミニホワイトボードを用意した。同じく①～⑮の番号も用意して自由に動かさせ、書き込みができるようにした。全体交流の場でも、大きめの番号を用意して班の考えを掲示。段落構成の結果がひと目でわかるようにした。



**番号の貼られたノートに
区切り線と理由を書く**



**ミニホワイトボードを使い
ながら話し合い**

8. 成果と課題

①ほめて伸ばす～音読活動～

◎どの子も音読がとても上手だった。これまでの積み上げを感じた。

◎音読後、すかさず担任が「○班は声が出ている、□班は区切り方がよい。」等と評価を行っていた。児童の意欲につながっている。

▲これだけ声に出せる学級なので、発表時の声量がもう少し大きければよかった。





②視点を明らかに～発問～

◎5つの視点(観点)をはっきりさせることが、児童が考える際の手助けとなり、とても効果的であった。

▲あとの3つの視点のおさえが不十分であったために児童に十分に伝わらず、個人の読みの活動では視点がずれてしまう子もいた。

③教材を上手く使って～班交流～

◎班活動が上手。役割もはっきりしている。

◎自分の考えを、理由をつけて話せる児童が多かった。ホワイトボードを操作して上手にまとめていた。

▲「班の代表意見」を出す場面では、理由がはっきりしないまま、児童の勢いで決定されたところもあった。

▲話し合いが、予定時間におさまらなかった。時間内に決まらない班があっても良いのではないかと全体交流の場でみんなが理解、納得できれば・・・



④理由をはっきりさせて～全体交流

～

◎概ね事前に予想していた結果と意見が出た。考える5つの視点を引き合いに出しながらはっきりと話す児童もいて、これまでの積み上げを再確認できた。

▲時間が足りず、最後までまとめきることはできなかったが、児童からは目標にせまる発表が数多くあった。

9. 部会員の皆さんに意見をいただきたいこと

①中学年説明文における段落構成の分け方について

効率よく読むために、また文章全体を俯瞰して眺めながら、どう視点をおさえ(段落始めの言葉、指示語や接続語、問いや答え・・・)で指導されていますか?

実践例があったら是非教えてください。

②説明文における、ノートやワークシート、教材の工夫について

今回は班活動でミニホワイトボードを使用しました。①②といった段落番号の磁石も各班に用意して、3つの構成に分けながら理由も書きこむことができ、有効であったと考えます。

※3年生「絵文字について説明しよう」を題材としたブロック提言内容骨子の例

2017年度 石教研国語(小)部会 二次研究協議会 運営委員研修会資料

〇〇サークル 中学年ブロック 提言内容骨子

責任者 〇〇小 〇〇 〇〇

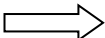
1. 年間指導計画における本単元の位置づけ

実施時期		8月
単元名		絵文字について説明しよう
研究の柱	(1)「読む力」を身に付けさせるために、「表現のスキル」に基づいて、説明的文章を効率的に正しく読み取るための手立ての工夫とそれに基づく指導のあり方	○
	(2)身に付けた「表現のスキル」を自分の表現(話すこと・書くこと)に活かすための手立て(=言語活動)の工夫と、それに基づく指導計画のあり方	
	(3)「説明的文章教材の『表現のスキル』系統表」の妥当性の検証	○
☆単元の目標／★教材の目標 (付けさせたい力)		☆段落のつながりに気をつけて読む。 ★問題を受けて、絵文字が広く使われるわけをその特長に気をつけながら、整理して読む。
表現のスキル(「ここが大事」)		・箇条書きにする。 ・要約する。 ・「始め・中・終わり」の段落構成
スキルを生かす「言語活動」		・事柄の中心的な部分と補足的な部分との書き分けに気をつけて、自分を取り上げた絵文字を紹介する。

2. 研究の柱に関わって実践、検証した手立て

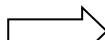
(1)「始め・中・終わり」の段落構成を正確にとらえるために、考える視点を明確にする。

以下に記す5つの視点(観点)のうち、先の2つは説明文「めだか」や「生き物のとくちょうをくらべよう」で習得済みである。あとの3つは、教科書学習の手引きから引用した。児童が考える構成分け(段落と段落のつながり)のヒントとして、授業開始時に復習をし、板書・掲示をした。

①時を表すことば「げんざい」、「昔から」  **既習観点(構成分けのヒント①)**

②段落のはじめの文「このように」、「絵文字の第〇の特長は」、「これからの」

③絵文字とはどのようなものを説明しているところ【①～③段落】

④絵文字が使われている理由を説明しているところ【④～⑫段落】  **学習の手引きにそって(構成分けのヒント②)**

⑤これからのくらしと絵文字の役割を説明しているところ【⑬～⑮段落】

(2)考える時間の確保、考えの整理と共有のために、ノートや教材に工夫を施す。

①あらかじめノートに段落番号の①～⑮の用紙を貼りつけておいた。それにより、全員が同じように段落を分ける線を引き、理由を考え書く時間を確保できた。

②班交流の場面では、ミニホワイトボードを用意した。同じく①～⑮の番号も用意して自由に動かせ、書き込みができるようにした。全体交流の場でも、大きめの番号を用意して班の考えを掲示。

3. 部会員の皆さんに意見をいただきたいこと

①中学年説明文における段落構成の分け方について

効率よく読むために、また文章全体を俯瞰して眺めながら、どう視点をおさえていくか?

②説明文における、ノートやワークシート、教材の工夫について

今回は班活動でミニホワイトボードを使用しました。